

つながり つながる 鈴鹿の教育

② 鼓ヶ浦中学校の取り組み

鼓ヶ浦中学校の取り組みについて、学校運営協議会の内田信也委員にお話を伺いました。

【学校運営協議会メンバーについて】



鼓ヶ浦中学校の学校運営協議会は、自治会長やPTA会長などさまざまな立場の8人が委員に任命されています。

私は保護司を長年務めてきていますが、子どもたちの教育のためには地域と学校との連携が何よりも大切で、これまで以上に強化していかなければならないと感じてきました。その経験を鼓ヶ浦中学校の学校運営に生かしていければと考えています。

【コミュニティ・スクールの核となる活動内容】

学校運営協議会では、学校が取り組もうとしている地域ボランティアの活用について協議しました。

具体的には、「学習支援活動」、「安全安心活動」、「環境整備活動」、「地域人材活用」の4つの学校支援の充実をめざしています。

「学習支援活動」では、毎週月曜日の放課後の「サポートタイム」へのボランティアの活用を進めています。現在5人の方に参加いただいています。皆さん「とってもやりがいがある」と話されており、活動への参加が、いわば自己実現の場にもなっているのではないかと思います。

また、夏休みには大学生にもボランティアに参加してもらっていますが、こうした補充学習には、毎回多くの生徒が参加しています。

「地域人材活用」で



は、地域の方をゲストティーチャーに迎え、太鼓や琴など和楽器の演奏や浴衣の着付けなどを教えていただいています。

【中学生だからできること】

「環境整備活動」では、毎年6月と10月に、寺家地区青少年育成町民会議や地域で鼓ヶ浦海岸の清掃を行っています。この活動には、全校生徒の約6割にあたる300人が参加し、地域と一緒に活動しています。

参加する中学生を見ていると、小学生の時よりも随分頼もしく感じられ、地域の大きな力になっているんだなあと、あらためて思いました。

そんな中学生の子どもたちが、地域のために頑張っていることも学校運営協議会で話題にし、地域の人たちにもっと知っていただければと考えています。

【地域と学校の関わりを深めたい】

今、地元は高齢化が進んできています。中学生はさまざまな地区行事に参加して「ありがとう」と言われてうれしいという感想を言ってくれます。小学校に比べて中学校は敷居が高いという印象を持たれがちなのですが、こうした課題を学校運営協議会で協議して、地域の方に気軽に学校へ足を運んでもらえ、子どもたちとの出会いや触れ合いが広がる学校になればと思っています。

こうした地域のつながりは、災害時にも大きな力となることから、学校と地域との交流が深まることは重要と考えています。



地域とともにある学校づくりをめざして

「学校運営協議会」での、 家庭・学校・地域の対話と協働による学校づくり!

学 校

- ◆地域の学校支援で培った教育力を地域活動で発揮
- ◆生涯学習としての自己実現の場の提供

保護者・地域住民

- ◆学校支援ボランティア活動や学校行事への参加
- ◆学校や地域の教育課題解決への参画

学校と地域との
双方向の連携

◎地域の子どもと大人、
大人と大人のコミュニケーションが深まります

◎学校の力だけでは実現できない
教育活動が実施できます

◎子どもたちに、地域への愛着と誇りが生まれます



学校に集う人と人とのコミュニケーションが、
子どもを育み、学校を育て、まちを創ります

平成18年12月教育基本法が改正され、これからの教育は、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」のもとで行われることが示されました。

子どもたちが、将来への夢と希望を持ち、たくましく社会を切り拓く力を育む学校づくりには、保護者や地域の皆さんの学校教育活動への積極的な参画が何よりも重要と考えています。「鈴鹿型コミュニティ・スクール」は、まさに家庭・学校・地域が心を一つにして子どもの教育に向き合う取り組みです。

学校運営協議会での協議を生かした改善活動を進め、子どもたちの「生きる力」を育むと共に、学校を支える地域のネットワークづくりを一層充実させていきたいと考えています。

今後とも、保護者や地域の皆さんから信用と信頼の得られる学校づくりに努め、「つなぎ つながる 鈴鹿の教育」の発展をめざしていきますので、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

鈴鹿市教育委員会

